

第25回 日本有病者歯科医療学会総会・学術大会
ランチオンセミナー 1

「お口を洗うジェル」で 水を使わない口腔ケア

座長 | **小谷 順一郎** 先生
大阪歯科大学 名誉教授

演者 | **角 保徳** 先生
国立長寿医療研究センター 歯科口腔先進医療開発センター センター長

日時 2016年 **3月5日**(土) 12:00-13:00

会場 **タワーホール船堀 C会場(桃源)**

共催：第25回 日本有病者歯科医療学会総会・学術大会
日本歯科薬品株式会社



抄 録

「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア

近年、継続的な口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎や低栄養の予防ができることが報告され、口腔ケアは単に口腔衛生の予防的手段ではなく、高齢者のQOLの維持向上や全身疾患の改善や健康増進に向けた医療の一環と考えられるようになりました。

誤嚥性肺炎予防策として、要介護高齢者に対する口腔ケアを実施した結果、肺炎が予防できたとの報告がある一方で、口腔内細菌が口腔ケアによって気管や肺に入り込むことにつながり、医原性に誤嚥性肺炎を引き起こす可能性が、指摘されています。

医原性に誤嚥性肺炎を引き起こす可能性については、口腔ケア時の洗浄水や汚染物の回収が重要なポイントと考えられます。口腔ケアを行っている病院、施設、在宅の多くは、汚染物の口腔外への排出に水を使った口腔ケアを行うことが一般的と考えられます。しかし、口腔ケアを必要としているのは、口腔機能、嚥下反射、咳反射が低下した高齢の患者さんや麻痺があり、自分でうがいができない患者さんが多くみえます。そのような患者さんの口に口腔ケアで使用した水分が残ってしまった場合どうなるのでしょうか？多くの場合は、スポンジブラシや医療用吸引装置などで除去できますが、水がのどの奥に流れても、患者さんは気が付かない、いわば不顕性誤嚥を起こすことも否定できません。

そのような事態を防ぐ手段のひとつとして、国立長寿医療研究センターでは「誤嚥リスクを低減する、水を使わない口腔ケア」を実施しています。水を使わなくて、何を使うのでしょうか？

答えは口腔ケアに適したジェルです。本法の概念として、鶴見大学の菅武雄先生が、『湿潤剤を歯磨剤に準じて用い、ブラッシングで遊離させたプラークを湿潤剤で保持し、湿潤剤ごと口腔外に回収するという考え方である。』と提唱されています¹⁾。我々はこの考えに賛同し、さらに発展させるために、現在の市場では口腔湿潤剤が多く使用されている中で、口腔ケア時に使用されるジェルの特性を検討し、口腔ケアを行う為の適した物性を評価し、口腔ケア専用ジェルとして「お口を洗うジェル」を新規に開発しました。

また、新規に開発したジェルに加えて、吸引嘴管を使用することで、さらに誤嚥のリスクを低減させると考えます。すなわち、ジェルで汚れを絡め取り、吸引器と吸引嘴管で常時口腔外へ排出することで「細菌を口腔内に拡散することなく、すばやく口腔外へ出す」ことができると考え、当センターではジェルと吸引嘴管を用いた専門的口腔ケアを実施しています。

今回は、口腔ケア専用ジェルとして新規に開発した「お口を洗うジェル」の特長や使用方法と、当センターで実施している「誤嚥リスクを低減する、水を使わない口腔ケア」である、専門的口腔ケアの具体的な手法を合わせご紹介させていただきます。

1) 菅武雄、木森久人、小田川拓矢、他：口腔湿潤剤を用いた口腔ケア手法、日本老年歯科医学会雑誌 21：130-134 2006。